

令和6年度学校評価書

岡山県立勝山高等学校
校長 池田 浩規



1 自己評価

I 評価結果 (別紙参照)

II 分析・改善方策

- ・学校評価アンケートからは、保護者に対する全質問項目のうち「学校満足度」「主体的活動充実度」「広報活動発信力」などの項目に対する肯定的回答率が90%を超えており、本校教育に対する保護者の満足度が依然として高いことが伺えた。また、他の多くの項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が継続して高く全体的に良好である。
- ・生徒に対する質問事項のうち、「学力を伸ばすための工夫した授業が行われている」「進路に関する指導が充実している」「担任等による面談が充実している」「学校行事、生徒会活動等、生徒が主体的に活動する機会が充実している」などの5項目に対する肯定的回答率が97～98%と非常に高い。教員が授業を工夫して学力を高めつつ生徒と向き合い、一人一人の将来について親身に助言指導を行っていることが評価されたと感じている。また、生徒会を中心に生徒が主体的に学校行事を運営していることや、活発な部活動とその結果として優秀な成績を収めていることなどにより、特別活動に対して高い充実感を得ていると思われる。

2 学校関係者評価委員名

山下 豊 (本校同窓会長) 宮本 浩治 (岡山大学教授)
森川 修 (鳥取大学入学センター教授) 平田 智子 (本校PTA副会長)
藤田 雅子 (真庭市教育委員会生涯教育課)

3 学校関係者評価

- ・説明会で学校の説明をするだけであれば校内で行う必要はないので、津山市などの他地域に出向いて広報活動を行ったほうがよいのではないかと。
- ・保護者の学校評価アンケートの回答に「どちらかというと思う」が多いので、学校の様子をもっとよく保護者に伝わると評価があがる。各教科担当が見通しを持って学力を向上させるような指導をお願いしたい。
- ・重点目標にある「教員の指導力向上」に資する具体的取り組みはあるのか。また、希望進路の実現について、各年次団の違いを意識してもらいたい。学習時間が増えたらそれでいいという訳でもない。また、「年間計画を立てて取り組む」とあるが、1年間、そして3年間の指導の見通しをどのように持って指導にあたっているのか。「小・中学校等との連携」とあるので、部活動の魅力化として、中学生と一緒にやる機会をしっかりと設ければよい。学校評価アンケートでは、「どちらかといえばそう思わない」という回答がやや多いように感じており、ここに校内の課題が潜んでいると感じている。

4 来年度の重点取組

- (1) 生徒の知識・技能や学習習慣の定着に繋がる効果的な指導方法の確立を目指して、教員の授業力・指導力の向上に組織的に取り組む。
- (2) 地域の進学拠点校としての魅力ある高等学校づくりを図るため、総合的な探究の時間や教員養成プログラム、デジタル人材育成事業の取り組みの中で、地域・小中学校・大学等と連携・協働し、質の高い教育の推進に取り組む。